

幼小中一貫校づくりに関するQ&A⑤

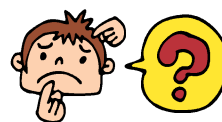
平成27年10月25日発行

福部地域幼小中一貫校の名称が「福部未来学園」に決定しました。来年度の開校に向け、着実に歩みを進めています。

さて、今回は、ビジョン図の中にもある「福部未来学園」ならではの教育、幼小中一貫教育の核となる「新設教科」についてお答えします。



Q1 教科の「新設」って簡単にできるの？



A1 かなり難しいことです。幼稚園・小学校・中学校には、それぞれ文部科学省が定めた「幼稚園教育要領」「小学校学習指導要領」「中学校学習指導要領」があります。これは、全国のどの地域で教育を受けても、一定の水準の教育を受けられるようにするためのきまりで、「学校教育法」という法令に基づき、各幼稚園や小学校、中学校で教育課程（カリキュラム）を編成する際の「基準」を定めています。

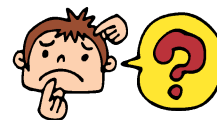
現在学校で行っている国語、算数（数学）、理科、社会、外国語活動（外国語）、道徳、特別活動などの教科や領域の「指導内容」や「計画」、「各学年の目標」「時間数」「授業の一単位時間」などはこの「指導要領」に従って行われています。

例えば、「授業の一単位時間」は小学校では45分、中学校では50分、「国語」の「授業時数」は小学校1年生では年間306時間、2年生では315時間・・・中学校2年生では140時間、3年生では105時間といったように、細かく定められおり、学校の判断で勝手に変えることはできません。

したがって、幼小中一貫校の核となる教科を「新設」するとなると、全国一律の「基準」を変更する必要が出てきます。そこで、福部地域では文部科学省が設けている「教育課程特例校」制度を活用することにしました。平成28年度の開校と同時に、「福部未来学園（小学校・中学校）」で、「教育課程特例校」の指定を受けようと考えたのです。

Q2 「教育課程特例校」制度を活用するって

どういうこと？



A2 「教育課程特例校」制度というのは、特別に許可を受けた特定の学校だけが、全国一律の基準とは違う制度を認めてもらえる仕組みです。

つまり、学校や地域の特色を生かした独自の教育内容を実施する必要が認められた場合、「学校教育法」に基づいて特別な教育内容を編成して子どもの教育を実施できるようになる、ということです。このことにより、本来学習指導要領で決められた国語、算数、道徳、特別活動などの教科や領域の他に、学校独自に新たな教科を設定できるようになります。「教育課程特例校」制度を活用することで、地域や学校・子どもたちの状

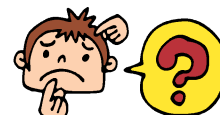
況や実態に合わせた「特色ある教育」を実施することや、その仕組みをつくっていくことができるようになるのです。

「幼小中一貫校」も確かに全国であまり例を見ない取り組みではありますが、中身である「子どもたちの教育」の充実を図ることが大切です。そこで、幼小中一貫教育の核となる「教科」を新設することになったのです。

実は、今年度初めから幼稚園・小学校・中学校の教職員で「教育課程特例校」のためのプロジェクトを立ち上げ、幼小中一貫校推進委員会や市教委と連携をとりながら、準備を進めていました。そして、8月末に県教委を通じて、文部科学省に「教育課程特例校」制度の申請資料を提出し、現在国からの認可通知を待っているところです。

Q3 幼小中一貫教育の核となる

「教科」ってどんな教科なの？



A3 幼小中一貫教育の核となる「教科」ですが、ねらいや内容については、おおよそ以下のように考えています。まず、「ねらい」ですが、ビジョン図にもある幼稚園・小学校・中学校の「子どもたちの実態」や「めざすこども像」、「答申」等にあった地域の「願い」を考え、次のようにしました。

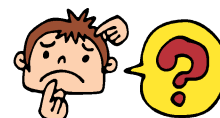
「礼節」や「奉仕」の心をもち、他者とのコミュニケーションを積極的に図り、地域や世界とつながっていきこうとする未来志向型の子どもの育成をめざす。

次に、教科の内容ですが、「人間力」と「国際コミュニケーション」の2つの領域で構成します。それぞれの領域では、以下のような力をつけることを目標としています。

- ◆「人間力」
 - ・日本人としての基盤となる礼節・品格・思いやりや奉仕の心をもつ児童生徒の育成。
- ◆「国際コミュニケーション」
 - ・他者とのコミュニケーションを図るため、英語などを用いて、地域や世界とつながろうとする意欲を育てる。
 - ・自分の将来に明確な目標をもち、集団や自分自身を客観的に見つめ、前向きな思考ができる力を育てる。

具体的な内容・活動については、現在プロジェクトで検討中です。

Q4 新設教科の名前は決まっているの？



A4 「福部の未来を創造する教科」ということで、「みらい科」という名称にしました。申請が認められれば、平成28年度より「みらい科」の授業が始まります。

「みらい科」のねらいをより効果的に達成させるためには、子どもたちが「人」や「地域」と関わり合いながら、具体的な活動をとおして学習を進めていくことが大切だと考えています。「みらい科」では、幼稚園から小学校2年までの「第Ⅰ期」、小学校3年から5年までの「第Ⅱ期」、小学校6年から中学校3年までの「第Ⅲ期」の3つのブロックごとの目標を意識した学習や活動をすすめ、幼稚園から中学校卒業までの10年間を見通した一貫教育の充実を図っていきます。

文責：幼小中一貫校推進委員会啓発部会 長石 彰(福部中学校教頭)